

日本本土産ゴマフアブ属の種類に就いて

河野 廣道・高橋 弘

(北海道帝國大學農學部昆蟲學教室)

UEBER 2 *CHRYSOZONA*-ARTEN VON JAPAN.

Von

HIROMICHI KÔNO und HIROSI TAKAHASI

(Mit 2 Abbildungen)

本文は筆者の一人河野が、日本學術振興會第8及び12常置委員會の仕事の一部として擔當せる樺太・北海道産虻類の研究の一部であり、又河野・高橋の「北東亞細亞産虻科の研究」の「第4報」である。

本研究に使用した標本は總て北海道帝大昆蟲學教室に所藏されてゐるもので、主として松村、小熊、内田、土井、渡邊、澤本諸氏並びに筆者等の採集せるものである。

爰に本文を始めるのに當り、色々と御便宜を計つて戴いた、鑄木外岐雄博士並びに内田登一博士に感謝の意を表明する次第である。

I. 總 說

日本本土(北海道、本州、四國、九州)産のゴマフアブ属 *Chrysozona* (= *Haematopota*) は1891年 BIGOT によつて始めて研究された。BIGOT は日本産ゴマフアブ属の種類を2種と認め其等を

Haematopota tristis BIGOT*Haematopota rufipennis* BIGOT

と命名して發表したが、産地は Japon とあるのみで精細な採集地は記録して居ない。SURCOUF (1921)、KRÖBER (1925) 等は BIGOT に従ひ、此の2種を別種として取扱つて居るが、KERTÉSZ (1908) は *tristis* を *Chrysozona pluvialis* LINNÉ の Synonym とし、*rufipennis* を別種と認めて居る。松村 (1905) は北海道、本州産のものを共に *tristis* と認め、更に (1911) には同種を樺太からも記録して

ゐるが、後に (1931, 1932) 北海道及本州のものを *Haematopota pleuralis* LINNÉ とした。然し *H. pleuralis* といふ種類は LINNÉ によつては記載されて居ないから、これは多分前出 *H. pluvialis* LINNÉ の誤植と思はれる。

素木 (1918) は始め *tristis* を北日本に産すと述べ *rufipennis* に就いては BIGOT の記載を英譯して引用したが、後に (1932) *tristis* 及び *rufipennis* の type を檢して *rufipennis* を靑酸加里で赤化する *tristis* と認めて、その Synonym とした。刈谷 (1935), KRÖBER (1939) はこれに従つてゐる。宮島・小泉 (1914), 素木 (1918, 1932), 木下・矢島 (1929), 加藤 (1934), 刈谷 (1935), 江崎・堀・安松 (1938) は何れも本州に *tristis* が産するとし、岡本 (1924) は朝鮮からも報告して居る。

筆者等の研究によれば、北海道帝大昆蟲學教室所藏の日本本土 (北海道, 本州, 四國) 産の *Chrysozона* は、明らかに 2 種存し、それぞれ

Chrysozона tristis (BIGOT)

Chrysozона rufipennis (BIGOT)

と思はれる。其の内 *C. tristis* と認められるものは、樺太・海馬島・南千島及び北海道産の標本のみで、本州以南のものは一頭もなく、*C. rufipennis* と思はれるものは、本州及び四國産の標本である。

素木 (1932) は前述の如く *C. rufipennis* を *C. tristis* の Synonym と認めて居るが、筆者等は BIGOT の原記載、並びに KRÖBER (1925) の記載により同定せる結果、北海道以北の標本は總て *tristis* に一致し、本州及び四國産の標本が *rufipennis* に一致することを知つたのである (兩種の區別は後章参照)。

筆者等の調査せる材料のみを以て *tristis* が本州以南に産しないとは斷言できないが、從來本州産の *tristis* とされてゐたものが大部分 (若しくは全部) *rufipennis* であらう事が想像出来る。

岡本 (1924) の朝鮮産 *tristis* も果して *tristis* であるか否かは疑問である。

尙 *C. tristis* は歐州産の *C. pluvialis* と酷似しては居るが、體が遙かに大きく、翅及び體の斑紋も多少異なるので、別種として取扱ふ事にする。

C. rufipennis は觸角第 1 節に縊れを有せず、翅及び體の斑紋を異にし、額は狭く、其の他多くの點で *tristis* と異り、明らかに別種と認む可きである。

II. 種の記載

1. *Chrysozona tristis* (BIGOT) ゴマフアブ

Haematopota tristis BIGOT, Bull. Soc. Zool. France, XVI, p. 77 (1891); BIGOT, Mem. Soc. Zool. France, V, p. 628 (1892); BEZZI, Katalog Paläarkt. Dipt., II, p. 56 (1903); MATSUMURA, Thous. Ins. Jap., II, p. 72, Pl. XX, fig. 4 (1905); MATSUMURA, Dai Nippon Gaichū Zensho, II, p. 68, Pl. X, fig. 8 (1915); SHIRAKI, Blood Suck. Ins. Formosa, I, p. 92, Pl. II, fig. 7 (1918); SHIRAKI, Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, VIII, 35, p. 42 (1918); KINOSHITA et YAJIMA, Jūeki Chōsajō Kenkyū Hōkoku, XII, pp. 357, 360, 364 (1929).

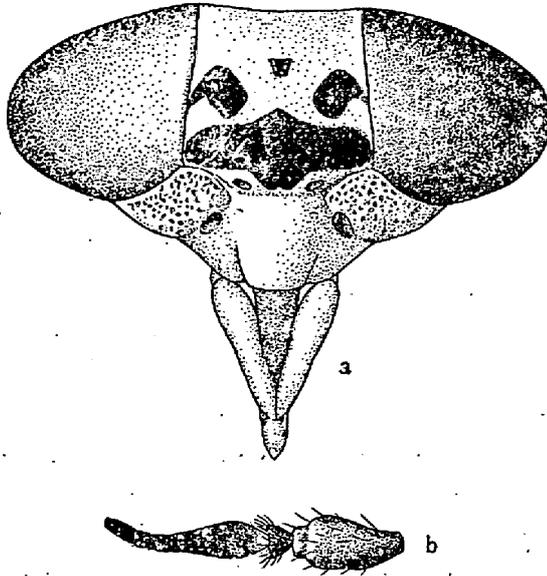
Chrysozona pluvialis KERTÉSZ (nec LINNÉ), Cat. Dipt. III, p. 205 (1908) (part.).

Chrysozona tristis SURCOUF, in WYTSMAN, Genera Insectorum, Dipt. Tabanidae, p. 36 (1921); KRÖBER, in LINDNER, Die Fliegen, 19, Tabanidae, pp. 43, 44, 53 (1925); KŌNO et TAMANUKI, Ins. Mats., II, 3, p. 129 (1928); SHIRAKI, Icon. Ins. Jap., p. 142, fig. 286 (1932); SHIRAKI, Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, XXII, 121, p. 262 (1932); KATO, Three Coloured Ill. Ins. Jap., X, Pl. XX, fig. 8 (1934); KARIYA, Cat. Jap. Ins., VI, Dipt. Tabanidae, p. 8 (1935); Kröber, Acta Inst. Mus. Zool. Univ. Athen., I, p. 50 (1938); SEKI, Entom. World, Tokyo, VI, 48, p. 202 (1938); ESAKI, HORI et YASUMATSU, Ins. Jap. Ill. Icon., p. 403, Pl. CLXXIX, fig. 700, 1 (1938); KRÖBER, Acta Inst. Mus. Zool. Univ. Athen., II, 3/4, p. 72 (1939); KŌNO et TAKAHASHI, Ins. Mats., XIII, 4, p. 159 (1939).

? *Haematopota sakhalinensis* ESAKI (nec SHIRAKI), Dōbutugaku Zasshi, Tokyo, XXXIV, p. 934 (1922).

Haematopota pleuralis MATSUMURA, 6000 Ill. Ins. Jap. Emp., p. 418, fig. 336 (1931); MATSUMURA, Ill. Common Ins. Jap., IV, pp. 42, 62, Pl. XI, fig. 19 (1932).

♀ 頭部は横形で胸部よりもはるかに幅廣い。複眼間は幅よりも少しく短く、上方に向つて僅かに狭り、灰色粉を密布して居り、暗色の短毛を疎生して居る。中央に黒色の1小紋を有し、其の下方額裸瘤の上方に1對の黒色紋があり、後者は圓形乃至曲玉状を呈し、側方は尖つて其の尖端は斜下方を向き、眼に接して居る。額裸瘤は黒色、少しく隆まり、幅廣く、兩端は殆ど眼に接し、上縁の中央は上方に向つて少しく尖る。觸角の間に額裸瘤の下縁に接して1個の圓形黒紋がある。顔面は灰白粉にて蔽はれ、前面に1對の黒小紋を有して居る。觸角は黒色、第3節の基部は黄褐、第1節は末端に向つて太くなり、棍棒状を呈し、末端部に近く急に細くなつて明らかな縊れを有する。第3節は第1節よりも遙かに細



挿圖 1

Chrysozona tristis (BIGOT) ♀

a. 頭部正面 b. 觸角

く、末端に向つて細くなり、次の3節を合せた長さよりも少しく長い。小髭末端節は黄白、基部の下面は暗色、末端に向つて尖り、黒毛を疎生して居る。

中胸背は黒色、5條の灰色の縦條を走らせ、側面は暗色を呈する。稜狀部は暗灰粉にて蔽はれてゐる。翅は暗褐色で、灰白透明の小紋を散らして居る。翅端に近い透明紋は波狀を呈して r_4 脈に迄達する。翅の外縁は透明紋列で縁どられ、其の内側に外縁と平行の淡色紋線を有する。翅

脈は暗褐色で、 r_4 脈には小枝を有する。肢の基節、轉節、腿節は黒色、前脛節は黒色、基部は白色である。中・後兩脛節は白色、末端部は黒色で基部及び中央の1部は暗褐色乃至黒色。跗節は黒色、中・後兩跗節の基部は白色である。

腹部背面は黒褐色で、中央線、各節の後縁及び1對の紋は灰色を呈する。腹部下面は灰色粉で蔽はれて居る。

♂ 眼は相接し、前額に1大黒紋を有する。觸角第1節は中央部が膨大し、末端部に縊れがない。小髭末端節は雌に比して遙かに太く短い。

胸背の灰白條は弱く、往々消滅して居る。

體長： 8~13 mm.

採集地： 樺太（ツイモフ、3♀♀、1922、河野・玉貫；檜保、2♀♀、10/VIII、1933、内田・岡田・澤本；内路、1♀、6/VIII、1924、村瀬；ガルキノ、1♀、29/VII、1914、小熊；野田、1♀、6/VIII、1934、渡邊・井上；小沼、2♀♀、6-8/VIII、1933、内田・岡田・澤本；小沼、1♀、1♂、23/VIII、1934、渡邊・井上；豊原、1♀、29/VII、1914、小熊）；海馬島（6♀♀、30/VII、1934、渡邊・井上）；千島（ポツケ、1♀、5/VIII、1925、土井；斜古丹、2♀♀、23/VII、1925、土井）；北海道（天鹽、1♀、4/VII、1916、一色；大雪山、1♀、23/VIII、1926、松村；札幌、1♀、2/VII、

1912, 松村; 定山溪, 2♀♀, 17-18/VIII, 1915, 松村; 日高, 2♀♀, 25/VIII, 1938, 高橋)。

分布: 樺太, 北海道, 南千島。

附記 1: 樺太産の♀は北海道産の♀に比して觸角第1節が細い。

附記 2: 樺太には本種の外に, カラフトゴマフアブ *Chrysozona sakhalinensis* (SHIRAKI) が報告されて居るが筆者等はその標本を検し得なかつた。

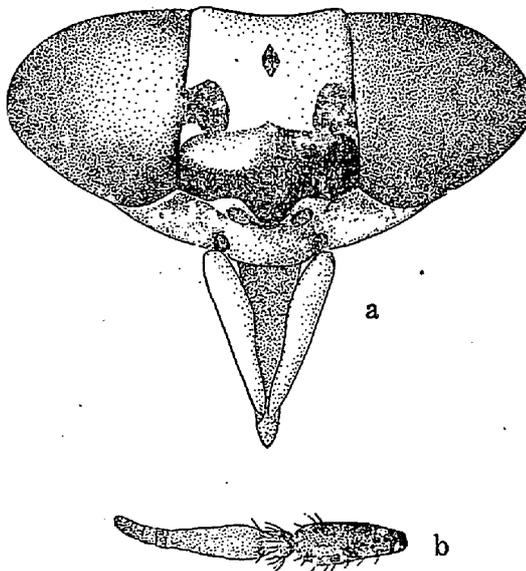
附記 3: 江崎 (1922) は樺太に於て, カラフトゴマフアブ *Chrysozona sakhalinensis* (SHIRAKI) の大群に悩まされた旨記して居るが, それは多分普通のゴマフアブ *C. tristis* の誤りと思はれる。

附記 4: 石 (1933) は樺太突阻山麓で本種の大群に悩まれたといふ。

2. *Chrysozona rufipennis* (BIGOT) アカバゴマフアブ

Haematopota rufipennis BIGOT, Bull. Soc. Zool. France, XVI, p. 77 (1891); BIGOT, Mem. Soc. Zool. France, V, p. 628 (1892); BEZZI, Katalog. Paläarkt. Dipt., II, p. 56 (1903); SHIRAKI, Blood Suck. Ins. Formosa, I, p. 118 (1918); SHIRAKI, Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, XXII, 121, p. 262 (1932).

Chrysozona rufipennis KERTÉSZ, Cat. Dipt., III., p. 208 (1908); SURCOUF, in WYTSMAN, Genera Insectorum, Dipt. Tabanidae, p. 35 (1921); KRÖBER, in LINDNER, Die Fliegen, 19, Tabanidae, pp. 43, 52 (1925).



挿圖 2

Chrysozona rufipennis (BIGOT) ♀

a. 頭部正面 b. 觸角

♀ 頭部複眼間は *tristis* よりも幅廣く, ほぼ正方形を呈し, 上方に向つて僅かに狭くなる。下半部に 3 個の黒紋を具へて居り, 其の内下方の 1 對は大きく, 側方は眼と幅廣く相接し, 下縁は額裸瘤と殆んど相接して居る (*tristis* では明らかに離れて居る)。額裸瘤は黒色, *tristis* に於けるよりも強く隆まり, 顔面の小

黒點は眼の下縁に沿つて分布し, *tristis* に於けるよりも少ない。觸角第 1 節は末端に向つて太まり, 棍棒状を呈し, 末端部には縊れがない。

翅は暗褐で, *tristis* に於けるよりも赤味が強く, 透明紋は小さく, 翅端紋は半月形を呈し, 翅外縁の各室は第 4 室を除き末端に 3 角形の透明紋を有する。

腹部の背面は黒色, 各節の後縁は灰白, 第 2 節以下の各節には 1 對の圓形灰白紋がある。其の他の特徴は大體 *tristis* と一致して居る。

體長: 9~11 mm.

採集地: 本州 (岩手, 1♀, 14/VI, 1910, 小笠原; 美作, 1♀, 21/VI, 1912, 高棕); 四國 (梶ヶ森山, 2♀♀, 20/VI, 1935, 岡本)。

分布: 本州, 四國。